

4年 3学期【国語】 主な評価規準

江戸川区立第二葛西小学校

単元	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
詩を楽しもう	詩の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。	いろいろな形の詩を読み、詩の世界を広げながら、その世界を読み味わおうとする。
		詩を読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動ができる。	
熟語のでき方	第4学年までに配当されている漢字を読むことや、文や文章の中で使うことができる。		二つ以上の漢字が結びついてできた言葉（熟語）の、漢字の組み合わせの仕方を理解しようとする。
身のまわりの「便利」なものを考えよう	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。	目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。	身の回りの道具や設備について、どういう人のために、どのように使いやすくなっているか話し合おうとする。
「便利」ということ	考えとそれを支える理由や事例、情報と情報との関係について理解することができる。	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	「便利」「不便」について、文章の内容を整理しながら筆者の考えを読み、身の回りの「便利」について考えをまとめて書こうとする。
	引用の仕方や出典の示し方を理解し使うことができる。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。	
	読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。		
調べてわかったことを発表しよう	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解し使うことができる。	話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。	身近にある道具や設備の「便利」について調べ、写真や図、表やグラフなどを使ってわかりやすく発表しようとする。
点（、）を打つところ	句読点を適切に打つことができる。		読点の打つところと、その理由を理解しようとする。
自分の成長をふり返って	漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。	自分の成長をふり返って、中心となる場面の様子が伝わるように、組み立てや表現を工夫して書こうとする。
	主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。	間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えることができる。	
		書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、文章のよいところを見つけることができる。	

雪	・ 長い間使われてきた「雪」に関わる言葉などの意味を知り、使うことができる。	・ 「雪」に関わる言葉を使った文章の書き表し方を工夫することができる。	・ 「雪」に関わる歌や詩、俳句・短歌、さまざまな言葉についての理解を深めようとする。
同じ読み方の漢字の使い分け	・ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使っている。		・ 同じ読み方の言葉や、同じ音や訓の漢字の意味のちがいを理解し、文の中で正しく使っている。
木竜うし (人形げき)	・ 脚本を読み、気がついたことや考えたことをわかりやすいように話している。	・ 脚本を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	・ 権八の気持ちの移り変わりやその理由を考えながら読む ・ とともに、気に入った場面について情景や人物の気持ちを想像しながら、脚本を物語のように書き換えている。
		・ 脚本をもとに物語のように書き換えた文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。	
これまで これから	・ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、この1年の国語学習で学んだことに注意して話している。	・ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、この1年の国語学習で学んだことを工夫している。	・ この1年間の国語の学習をふり返りながら、これからの学習でどんな活動をしてみたいかを話し合っている。
		・ この1年間の学習をふり返って、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	